

特集

ペルーの天文学施設見学ツアーについて

根本しおみ（国立天文台 天文情報センター）

1. はじめに

私は2011年7月から2014年6月までの3年間、JICAのシニアボランティアとしてペルーの国立プラネタリウムで活動していました。「今年最新の天文学を普及するWSでALMAに行く」という話を伺ったのは、まだ私がペルーに住んでいる時でした。「せっかくチリに来るなら隣のペルーにも来ませんか？ オプショナルツアーを企画しますよ」と、ツアーコンダクターを買って出ました、ペルーにも、ALMAに劣らず日本人に見て欲しい天文学施設があるからです。

2. 天文学の「光」と「影」

多くの国が協力し合い、巨大な天文学の観測装置を作り、すばらしい成果を出しているALMAは、まさに今、スポットライトを浴びている天文学施設です。一方で、ペルーには、日本人と日本人の血を引くペルー人が何十年も不屈の努力をしながらも、未だに天文学の成果を出せないでいる天文学施設があります。

ALMA（光）の後に、ワンカイヨ（影）を見て欲しい。

ペルーには、日本からの寄付のお陰でちゃんと成果を出しているイカの太陽観測所もあるのですが、私はアンデス山中・標高3,300mの盆地の街ワンカイヨにある、ペルー地球物理研究所ワンカイヨ観測所とその管轄下にある（あった）シカヤ宇宙電波観測所とコスモス太陽コロナ観測所をオプションツアーに選びました。

3. 日本人なら？

それにしても、まともに働いている日本人ならALMAに行くための休みを取るだけでも大変なのに、さらに休みを取らないといけ

ないペルーなんて、きっと2、3人しか来ないよね、というのが当初の私の予想でした。

2、3人だったら今ワンカイヨ観測所にある車で全員乗れるし、特に大変な準備はないだろう、と高をくくっていたらそれは誤算で、フタを開けたら7名も来る、ということで急遽8人以上乗れる車を探さなければいけなくなりました。行く場所は高地で悪路だし、リマから車を運んで来るのも大変だし…。と困っていたら、ワンカイヨの日系人協会が運転手付きで10人くらい乗れるマイクロバスを無料で貸してくれる事になりました。地球の反対側でも、日本人の団結力は頼りがいがあります。ワンカイヨ日系人協会のみなさまには、日本から菓子折りを持って行きました。

4. おいでませ、ペルーへ

以上のようなペルーでの交渉や準備は、すべてペルー地球物理研究所ワンカイヨ観測所長で、当時私の上司でもあったホセ・イシツカさんがやって下さいました。

ワンカイヨは天文学施設の見学の他にも、化石を掘りに行っても楽しいし、興味深い遺跡もあるし、珍しい高地の植物もあるし、天文好き（＝自然観察が好き）の日本人が来たら連れて行きたいところはたくさんあります。しかし、そんなにたくさん休める人たちじゃないはずだから、できるだけコンパクトなツアーにしなきゃ、ということで、ペルーツアーはALMAの後3泊4日になりました（ついでに、ペルーは美食の国なので、おいしいものをたくさん食べて行って欲しくて、どの日にどこで何を食べるか、などということを考えるのも楽しかったです）。

表1にペルーツアーの日程を示します。

表1 ペルーツアー日程

9月26日	
サンチアゴ空港でALMA WS解散、空路リマへ。	リマのホテル泊
9月27日	
朝 7:45 リマ発、高速バスでワンカイヨへ（バスは4800mの峠を超えて行き、アルパカの群れと遭遇する事もあります。パノラマビューの席で車窓の風景を楽しめます。昼食・ビンゴゲーム付き）。 15:00 ワンカイヨ着、市内観光後、ワンカイヨ観測所へ。夕食はカルド・デ・ポヨ（鶏のスープ）。	ワンカイヨ観測所職員宿舍泊
9月28日	
朝食は地元で作っているチーズとパン。 朝食後、日系人協会のマイクロバスで1988年にテロリストに爆破されたコスモス太陽コロナ観測所跡（標高4,600m）見学。 ワンカイヨ市内へ降りて、観光レストランで昼食。ダンスタイムあり。 午後、盗難と戦い続けるシカヤ宇宙電波観測所見学。 夜、ワンカイヨ観測所内見学。 夕食はペルーの国民的料理、ポヨ・ア・ラ・ブラッサ（鶏の丸焼）。	同上
9月29日	
朝食はタマル（トウモロコシの粉で作ったチマキ）と、レチョン（子豚の丸焼）を地元の丸パンにはさんだサンドイッチ。 午前中、プレインカ時代の住居跡・トゥナンマルカ遺跡見学。 湖畔のレストランでトゥルチャ（鱒）料理の昼食後、ハウハ空	機中泊

港へ。

17:00 ハウハ発、17:50 リマ着。
空港内のホテルのバーでセビツチェ（鮮魚をレモンと唐辛子でしめたペルーの代表的料理）を食べ、ピスコサワー（ピスコはペルーの地酒で葡萄の蒸留酒）を飲んで、日付が変わる頃、日本へ帰る便へ。

5. おわりに

未だにテロリストの落書きが残っているコスモス太陽コロナ観測所の廃墟や、今なお盗難と戦うホセ・イシツカさんの姿は、同じ天文をやる人間としていろいろ感じてくれたのではないかと思います。みなさんが来てくれて本当に嬉しかったです。

「ペルーでは天文談義が出来る人がいないので、皆さんがいたときは本当に楽しかった、帰ってしまった後はとても寂しかった」と、イシツカさんもおっしゃっていました。

根本しおみ